

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	15-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Gender-Specific HIV Prevention Interventions for Women Who Use Alcohol and Other Drugs: The Evolution of the Science and Future Directions. アルコールや薬物を使用する女性を対象とした HIV 予防介入：科学の発展と今後の方向性		
執筆者		
Wechsberg WM, Deren S, Myers B, Kirtadze I, Zule WA, Howard B, El-Bassel N.		
掲載誌		
J Acquir Immune Defic Syndr. 2015 Jun 1;69 Suppl 2:S128-39. doi: 10.1097/ QAI.0000000000000627.		
キーワード		PMID
性不平等、女性対象 HIV 予防介入、アルコールや薬物 (AODs)		25978479
要 旨		
目的： アルコールや薬物 (Alcohol and other drugs, AODs)を使用している女性に対する HIV 予防介入研究をレビューする。		
方法： AODs 使用女性を対象とした HIV 予防介入研究のうち 1990 年以降に報告された論文について PubMed や Embase、ISI Web of Science より検索した。検索条件は、女性を対象とした HIV 予防介入研究 (RCT)であることに加え、(1) コンドーム使用法を含むリスク行動、(2) 注射のリスク行動、(3) HIV 発症率、(4) AOD 使用のいずれかをアウトカムとしていることとした。		
結果： 女性を対象とした HIV 予防介入研究は大きく 3 つに分類された。まず第 1 世代として、1980 年代後期から 1990 年代初期に実施された 4 つの介入研究が挙げられ、主に HIV/AIDS の知識やコンドーム使用法などを教育する介入研究が行われた。これを基に第 2 世代として、2000 年以降にマルチメディアを用いた介入研究が行われた。また、AOD を使用しているカップルに対する介入も行われた。2010 年頃からの第 3 世代は、第 2 世代を基に、行動変容を促すだけでなく、抗レトロウイルス療法や前曝露予防法などのバイオメディカルを用いた介入が行われ、実社会に適合した複合予防アプローチが始まっている。		
結論： 女性を対象とした HIV 予防介入による HIV 関連リスクおよびリスク行動の減少効果が数多く報告されている。今後、AOD 使用による HIV に関連する性行動に対する普遍的なかかわりと十分な情報が必要と考えられる。		